

◎食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2020 (4回シリーズ)

『消費者市民のリスクリテラシー向上を目指したリスクミとは』

第4回テーマ：『食品添加物のリスクミ～無添加／不使用表示の弊害とは～』

【開催日】 2020年10月25日(日) 13:00～17:50 (最大延長：18:00)

【開催場所】 オンライン配信となります (Google Meet)

*会場の東京大学農学部中島董一郎記念ホールへの入構不可のため。

【主催】 NPO 法人食の安全と安心を科学する会 (SFSS)

【後援】 消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター

【協賛】 日本生活協同組合連合会、一般社団法人食品品質プロフェSSIONナルズ、
東京サラヤ株式会社

【対象】 食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、
マスメディア、消費者団体・市民団体、など

【定員】 先着 80 名 (オンライン対応のみ)

【講演会参加費】 3,000 円/回 (事前に銀行振込をお願いいたします)

*SFSS 会員、後援団体・協賛企業 (口数により人数制限)、メディア (取材の場合) は無料

【参加申込み】 <https://forms.gle/LTibPVUoLnVyrf3e9> (10月23日で受付終了予定)

【お問い合わせ】 SFSS 事務局まで (info@nposfss.com)

【本フォーラムの主旨】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、講師 3 名 (Q&A 含み 60 分) + 総合討論 (90 分) :
13:00～17:50 の構成とします。総合討論では、消費者市民の安全・安心につながる食のリスクコミ
ュニケーションのあり方について、参加者の皆様からの質問に講師が回答する形で議論します。

【事故防止対策等】フォーラム開催に際して、事故防止及び公衆衛生の措置に留意し、十分に講じま
す。特に、今般の新型コロナウイルスに関しては、十分な感染症対策等を講じることとします。

【各講師のご紹介&講演要旨】

① 三輪 操 (日本農芸化学会フェロー)

『食品添加物について正しく伝えるには』

食品添加物の研究に長く携わり、いろいろな所で講演や講義を行ってきたが、「添加物の有用
性・安全性」がうまく伝わらず、もどかしい思いをすることが多い。相手が学生であれば必修科
目の単位を取るため必死に勉強するし、科学的に理解してくれる可能性が高い。一方、「何とな
く不安」、「中学・高校の先生がなるべく使うなと言った」、「無添加表示の食品がたくさんあると
いうことは添加物は危ないのだ」、というような理由で添加物を避けている人たちに対しては、
科学的データを示して、「ほら、大丈夫ですよ」、と言っても、添加物に対する不安が簡単に消え
るわけではない。消費者それぞれの立場を考慮した伝え方を工夫する必要があるのではないか。

② 小島 正美 (元毎日新聞)

『無添加表示の犯人はだれなのか—メディアか事業者か市民団体が行政か』

食品添加物の危険性を煽る人たちを分類すると以下の4つだ。①週刊新潮のような週刊誌、②週刊誌に登場する市民活動家とその学者、③無添加で商売をする事業者、④学校給食は無添加にすべきだとする学校関係者。この4者の影響力で得をする人、損をする人はだれなのか。損失を被っている人は何をすればよいのか。そもそも食品添加物のリテラシーを上げる目的とメリットは何なのか。このままだと何が問題かを、もう一度、ゼロから考えてみる必要があるのではないだろうか。

③ 西島 基弘 (実践女子大学名誉教授)

『食品添加物の安全性と無添加/不使用表示』

食品添加物は、国として安全性や有効性、各種の規格など厳しい条件を満たしたものについて認めたものです。このことも知らない消費者が多いのが実態です。昔から食品添加物無添加/不使用の表示は少しありましたが「着色料、保存料不使用」という大手コンビニの商業で火が付き、その後は他のコンビニも追従し、次いで中小メーカーの製品にまで不使用表示が書かれるようになりました。それにより消費者は食品添加物を使用していない食品が安全と思う人も増え、無添加/不使用を書かないと売れないと思いつつメーカーも出てきました。添加物不使用についての矛盾と弊害を考えてみたいと思います。

以 上